第６回向日町競輪事業外部有識者会議　議事概要

○日　時：令和５年１０月３０日（月）　１５：００～１６：３０
○場　所：向日町競輪場　選手管理センター　３階３０５会議室
○出席者：川勝座長、岡﨑委員、奥野委員、小長谷委員、徳廣委員、山本委員

＜議事＞
(1) 向日町競輪場基本構想（中間案）について
「資料１」「資料２」に基づき、京都府から説明

（小長谷委員）
・　京都府の人口当たりの大規模スポーツ施設数が少ないのは、何か理由があるのか。

（京都府）
・　理由について明確な説明は難しい。都道府県だけではなく、市町村が整備した施設もあり、整備するタイミングは、どこの府県も国体の開催に合わせて、スポーツ施設の増設や改修が行われることが多い。京都府では、前回の国体開催が昭和６３年と年数が経過しているため、このような状況になっていることも考えられるが、何が原因か探ってまいりたい。

(2) 意見交換
（徳廣委員）
・　中間案はよくまとめていただいており、方向性は問題ないと思う。前回の外部有識者会議で、競輪場に加えて屋内スポーツ施設ができれば、効果が高いのではないかという意見があり、私も賛成の方向で意見を述べた。競輪場や屋内スポーツ施設、何より地域にとって、Win-Winとなる方向性を構築できれば一番よいのではないか。
・　これまでいろいろなスポーツに関わってきたが、屋内スポーツ施設や競技としての自転車競技のトラックだけでなく、地域の防災、賑わいの重要性はどれも外せないのではないか。
・　外部有識者会議での議論は、向日町競輪事業をどのようにしていくかということなので、バンクについて意見を述べれば、今年、北桑田高校３年の女子選手がジュニアのアジア三冠、全日本選手権二冠、インターハイ二冠、世界選手権銅メダルを獲得した。卒業生達が日本チャンピオンになり、インカレでも次々と優勝しており、向日町競輪場にも貢献できているのではないかと考えている。向日町競輪場で練習した選手達が、次のオリンピックで活躍してほしいと切に願っている。
・　コロナ禍の時には、インターハイが中止になり、代替大会を向日町競輪場で開催したところ、選手や保護者、関係者から感謝の声をたくさんいただいた。
・　仮に、屋内スポーツ施設ができるのであれば、同じような競輪施設としては屋内施設までは必要ないかもしれないが、世界的な規模の大会を誘致しようとすると、バンクの周長は３３３ｍで、屋根があることが少なくとも必要になってくる。競輪にとっても、屋根がある施設は少なく、大いにＰＲになる。
・　全面が難しくても、トラック部分が屋根に覆われるようなことも含めて、改修が行われるのであれば、競輪をはじめとする自転車競技の聖地になるような形でお願いしたい。また、老朽化が進む中、少しでも早く改修してもらえれば、競技側としてもありがたい。

（岡﨑委員）

- 中間案に記載はないが、施設の配置が最終的にどのようになるのか。市民の関心事が屋内スポーツ施設の方に向かってしまっている感があり、競輪場が存続されることは周知の事実とはなっているが、新たに整備される外向車券投票所の位置付け、場所の問題が、市民にとってより関心事になってくるのではないか。
- これまで競輪場敷地内で車券が購入されていたが、敷地に入らずに車券が購入できることになるのか。３６５日のうち、場外発売は２００日以上あり、市民生活とも密接に関連してくるので、人の流れがどのようになるかなどを最終案では明確に示してほしい。
- 施設を見て一番気になったのが選手宿舎である。未だに浴室が男女時間差で利用されているなど、社会的に問題が起こらないのか。早く解決する必要があるのではないか。再整備に当たっては、そうした面についても優先的に対応すべきではないか。また、最終案では、実施計画のようなスケジュールが示されるのか。

（京都府）

- 外向車券投票所は、スタンドに隣接した位置に配置し、場外発売時は外向車券投票所だけを開けて、本場で平安賞のような大きなレースを開催する時は、隣接するスタンドとセットで開けて、運営の効率化を図りたいと考えている。懸念いただいている道路に面しているとか、外から見られるような位置というよりは、現在の中央スタンドに近い位置に整備できればと考えている。
- 選手宿舎については、「資料１」の８ページに記載しているが、御指摘いただいたとおり、女子選手への対応や感染症対策の観点から、他の競輪場でも行われている個室化などを参考に、競技環境の改善を図っていきたい。施設整備によって、自転車競技の関係者にも、より使っていただきやすい施設にしていきたい。
- スケジュールについては、最近の社会経済情勢などもあり、また設計などを行っていない状況でどこまで詳細なスケジュールをお示しできるのかという点はあるが、他の競輪場の再整備の事例などを踏まえ、可能な限りお示ししたい。

（山本委員）

- 社会経済情勢などの事情からも、スケジュールについては、明確にできない部分もあると思う。もう少し踏み込むとすれば、施設の規模をどのように設定するのか、もう一段階詳細な検討を行うのか、はっきりした方がよいかもしれない。
- 例えば、配置案や施設のおおよその規模などを、年末までに詰めるのは難しいと思うので、もう一段階、検討をどこかで行ってから、設計や整備工事に入ってはどうか。
- 整備手法について、「資料１」の９ページの「民間事業者の強みを活かして」という部分と、１０ページの「施設整備基金及び繰越金を可能な限り活用する」という部分で、両論併記されており、どちらにするのかということは今の段階では決められないと思う。それによって、整備スケジュールも変わってくるのではないか。
- あくまで再整備を行うが、もう少し詳細な検討が必要であるという着地点が、基本構想としては現実的ではないか。

（川勝座長）

- 規模感について今の段階で言うのは難しいが、競輪ファンの動向を見てみると、競輪場に来て観戦するよりも、ネットで購入してということにシフトしている。少なくとも観客席に関しては、規模を縮小し、その分余剰スペースに余裕を持たせて、地域との関

わりに活かしていこうということが、意見としては一致しているところである。

- 基本構想では、大きな方向性やビジョンについてしっかりと書き込んだ上で、より具体的な規模感、スケジュールや必要な財源については、その次の基本計画の中でもう少し具体的にということになるのではないか。
- 基本構想なので、そのレベルに応じた内容、書きぶりに留めておいた方が、後々新しい要素を入れていかないといけない時に、柔軟に対応できるのではないか。
- 逆に言うと、骨格としての大きな方向性については、外部有識者会議で議論したこと、地域の皆さんの声などから価値として共有したものをしっかりと打ち出していくということにこだわった方がよいのではないか。

（奥野委員）

- 冒頭の説明で、基本構想はあくまでも理念や方向性を示すという話をされていた。もっとビジョンの部分を厚くする方がよいのではないか。
- 京都府内の自転車競技のいわゆる聖地で、自転車を取り巻く様々な競技の人材育成と競技活躍の場を全国に先駆けてここに定める、また、地域に調和した中で作るといったような大きなコンセプトを最初にまとめていただくと、次の計画に入っていきやすくなるのではないか。
- サンガスタジアムの時もそうであったが、観戦がネットに移行しているので、どちらかというと、競技をする方々やスポーツに親しむ方々、地域の方々を呼び込んでいくということにつながっていくのではないか。道路整備などにしっかりと配慮した、都市型競技施設のあり方を目指すような記載があれば、後程の細かい定義のときに外さないのではないか。

（小長谷委員）

- 基本となる理念の部分を、もう少し強調した方がよいのではないか。住民説明会に２日間で７３人が参加され、パブリック・コメントで３８人の方々からの意見が届いていることからも、市民の皆さんの関心が非常に高いと思われるので、理念を市民の方々に御理解いただいた方がよいのではないか。
- 自転車競技の聖地など、いろいろと複合的な役割を持つ施設になるのではないかと思うので、中間報告などをきめ細やかに市民の方々にしていただき、その都度意見を伺っていただければと思う。

（川勝座長）

- 基本構想という名にふさわしい柱立てとしては、「資料１」の７ページのコンセプトに当たる部分の厚みを増すような内容が必要であるという印象を持った。この部分は外部有識者会議の中でも一番時間をかけて議論をしてきたことであり、関係者の皆さんが基本構想を見たときに、やはりワクワクする内容であった方がよいのではないか。
- この地域に呼び込むべき対象は、スポーツ競技に勤しむ方々、憩いの場として家族や友人と利用する地域の方々など様々であり、かつての競輪場のような特定のステークホルダーを対象に人を呼び込むというコンセプトからは随分変わるイメージを、外部有識者会議の中でも構想できたかと思うので、もう少し基本構想の中で描いていただければと思う。
- 限られた件数ではあるが、パブリック・コメントや住民説明会でいただいた御意見には様々なものがあるが、期待感が非常に高まっていることは間違いない。高まる期待感

に応えられる構想を描いていただきたいが、描いた構想がいきなり完成版という訳ではなく、基本的なところを堅持しつつ、常にアップデートされていくような構想になっていけば、よりよいのではないか。

（徳廣委員）

・　現段階で、具体的にどうなるのか決まっている訳ではないので、これからの方向性を最初に示していくことが大切なのではないか。

（山本委員）

・　「資料１」の８ページにある選手宿舎について、実際は他の競輪場でも対応できてないところがほとんどである。今の世の中の常識的にはありえないことであるが、浴室は、女子選手がいない前提で選手宿舎が建てられている。女子選手のレースが始まってちょうど１０年が経過したということで、選手宿舎の問題は迫られているところである。
・　本場でレースを行える日は、ミッドナイト競輪を含めても１００日を超えることはないので、残りの２００日あまりの活用を考えておかなければならない。
・　外向車券投票所の配置は決まっていないが、やりたいことは車券売場の集約化である。現状、１箇所開いておれば問題ない程度の来場者数となっているが、今の施設であれば、何となく全てを開けておかなければならない状況で、効率がよくないので、どこか１箇所に集められる場所ができればよいという発想である。場外発売時には１箇所に集約化するという書きぶりであれば、ギャンブル性の懸念に対する誤解を解くことができるのではないか。

（岡﨑委員）

・　余剰スペースをどのように活用するかという議論について、市民との交流をどうするのかという議論が少し欠けているのではないか。これまでも京都府や受託事業者が、市民向けの事業や取組を通じて、競輪開催への理解や協力を得ている。例えば、向日市民祭という大規模なイベントが、数十年間にわたって開催できてきたことである。地域住民との交流を今後どうしていくのかということも、盛り込んでいかないといけない。競輪の部分だけでは、市民の理解を得られないのではないか。
・　余剰スペースの活用についても、引き続き、競輪選手との交流やイベントなどの機会を設け、地域住民と交流していくことが、競輪を持続的に開催していくことにつながるのではないか。
・　競輪場があるおかげで潤う部分もあると思うので、余剰スペースだけで人を集めるのではなく、競輪場としても人を集められるような工夫を考えるべきではないか。
・　これまで、向日市、向日市民とトラブルなくやってこられたのは、様々な努力をしていただいたおかげであると思っている。市民との交流についても、基本構想に盛り込んでいただければと思う。

（徳廣委員）

・　競輪開催として、スポーツ競技として、それから地域の賑わいとして、余剰スペースも含めてパーク的なイメージが全体としてあり、そのようなイメージの方が競輪に対しても柔らかいものになるのではないか。そこに、例えばアリーナやプロスポーツなどの競技もあり、様々な方々がスポーツだけでなく集まれて、皆でわいわいできるパークのような謳い文句が表になると、少し柔らかな感じでよいのではないか。

（川勝座長）

- この夏にアメリカに出張した際に、スタジアムに立ち寄る機会もあったが、アメリカではボールパークという言い方をしている。アメリカも日本とは程度の差があるものの、野球が他のスポーツの人気に押されているという側面もあり、野球が好きな人だけではなくて、その地域に集まってきて、その雰囲気、地域を楽しみたいというようなコンセプトで、野球そのものにあまり関心のない人も含めて、スタジアムに人を呼び寄せるような仕掛けがいろいろなところであったという印象がある。
- 競輪そのものに、少なくとも最初は特に関心のない方々であったとしても、この地域に来ると何か一緒に楽しめる、そういう場所になっているということであれば、今までこの地域にあまりゆかりのなかった方も集まって来られることにもなっていくのではないか。具体的なアイデアはないが、そういうことにも少し視野を広げたコンセプト、構想を描いていくということが大事ではないか。

（奥野委員）

- ウェルネスサイクルパークのような言葉を付けることになるかもしれないが、北海道の新しくできた野球場であるエスコンフィールドＨＯＫＫＡＩＤＯには、野球を観戦しない方でも楽しんで入場でき、参加できるようなコンセプトがあると聞いている。再整備では、競輪事業を通じて、自転車競技人口の増加を達成するようなコンセプトが必要ではないか。
- 運営する事業者としても市民と協調した運営ということで、これまでも、ＫＡＲＡ－１グランプリなど競輪を開催していない日に、競輪場の施設を使って、住民の理解を得るような機会を作っていた。コンセプトの中には、６０日程しかレースがない中で、競輪の開催がない日にどのように市民に開放された競技場であるべきかといったことを基本構想に盛り込むべきではないか。
- 活用の仕方についてもコンセプトを示すべきではないかとの意見については、余剰スペースを単にお金を稼ぐために使うのではなく、市民生活との共存という意味で理解している。
- 外向車券投票所については、市民からして、向日町競輪場で競輪の開催がない日に、ギャンブル性の高いものをオープンの場で発売していることはあまり好ましくないのではないかとの意見もあったが、外からは見えないようにして、またギャンブル性をあまり強調せずに、市民の方々が安心して生活できるような配置を行うべきではないか。

（小長谷委員）

- トラックの部分だけを屋根で覆ってはどうかとの意見もあったが、財政面に大きく関わるのではないか。サンガスタジアムもネーミングライツを獲得しており、宇治市の施設（宇治発電所）でも三井住友銀行が獲得したという話もあるが、向日町競輪場でも同様に収入が入ってくるようなシステムも必要ではないか。
- ウェルネスパークという話もあったが、自転車を通して、市民の健康増進に寄与するということもあるので、そうした点についてもアドバルーンを揚げることも大切ではないか。

（川勝座長）（まとめ）

- 皆さんの御意見を改めて整理させていただく。基本構想ということで、全体のコンセプトをまずしっかりと柱立てして打ち出していくという構成にした方がいいのではない

かという話をしたが、そのコンセプトの中にもう少しエッセンスとして必要なのが、活用のコンセプトについてである。

- 全体のビジョンということもあるが、そのビジョンの中に、どのように活用していくかということについて、もう少し言及が必要ではないか。具体的には、委員の皆さんの御意見をお聴きした限りでは、スポーツ人材の育成といった点について、もう少し強調してもいいのではないか。
- 年間で、競輪のレースの開催に活用できるのが６０日程度ということで、レースが開催される日以外の方が圧倒的に多いということであり、その時の活用方法について、しっかりとイメージ、ビジョンを描いておかなければいけないのではないか。
- その時の一つの考え方としては、日常的には、選手やスポーツ人材の育成という点が一つ重要ではないか。これは自転車競技だけではなく、自転車競技に付随するＢＭＸなどの競技も含めてということになる。というのは、中間案の２ページに記載されているが、モーニング、ナイター、ミッドナイトと時差のある環境の中でレースをする選手の負担は結構なものではないかと思う。選手は時間が非常に不規則な中でコンディションを整えてレースに望むということを考えると、選手の負担ケアということもしっかりと念頭に置いた選手宿舎をはじめとする施設の整備が必要ではないか。選手がつぶれてしまったら、そもそもレースどころではないことを考えると、そのあたりもしっかりと念頭に置いて、一人一人のケアだけではなく、選手層の厚み、選手の底上げもしておかなければ、一人一人の負担が大きくなってしまい、競輪場あるいは競輪競技を軸に考える中で、そこがこけてしまってはどうしようもないというところをしっかりと念頭に置いたコンセプトを描いておくということが必要である。
- 中長期的に見れば、選手を計画的に育成していくというようなことも考えておかなければならないのではないか。そのためにも、２００日以上はレースに使われていない競技場を選手の育成の場としてもしっかり活用していくことが、まずは大事なのではないか。
- 選手として、当初はあまり念頭に置かれていなかった女子選手も増えてきたという話もあった。女子選手への配慮は今や常識になっている訳であり、そうした点を明確に記載してはどうかという御意見もあった。そういうことに配慮するという点への言及は必ずしていただく方がよいと思う。具体的にどうしていくのかというところまでは記載はできないかと思うが、そうした想定がない中で動いているという状況はよくなく、そこはもう変えていくということを明確に示すことが必要ではないか。
- 活用のコンセプトについて、今申し上げたようなことを例示するとか、スポーツ人材の育成について少し強調するような形で記載する。また、それに付随して、必要な施設、選手宿舎などの整備が示されるべきではないかということが、１点目になる。
- ２点目は、本日も話題になった、余剰スペースの活用についてであるが、あくまで競輪開催の場というところで、その点を軸に、このエリアについては考えなければいけない。その時に、地域の方々にもいろいろと御意見をお伺いしたということであるが、少し気になったのは、向日市の関わりがあまり見えないというところである。
- 向日市民の皆さんからはいろいろと御意見をいただいているが、地域の活性化と一体的に考えていくということになれば、向日市とうまくコラボレーションしていかなければ、後から向日市にとって何か思っていたのとは違うというようなことになってもよくない。向日市にとってもよかれと思って府がやっていることがそういう形で評価されるのも不本意であると思われるので、しっかりとコミュニケーションはもちろん、積極的な関わりをもってやっていくということが大事ではないか。

・　しかし同時に、府の施設であることを考えると、広域的にも便益が及ぶようなコンセプトをしっかり描いておかなければいけない。ローカルな向日市の活性化のみに貢献するということでは少し弱いような気がする。したがって、向日市域、競輪場を軸としながらも、その便益が京都府域全体に寄与するように、広域的に集客できるような、そうしたコンセプト、構想というものが、同時に必要ではないか。
・　広域的に集客するとしたときに、競輪を見に来るお客さんを広く集めるという狭い意味ではなく、前に述べたように、例えば、競輪やＢＭＸの練習場として選手の皆さんに集まっていただくとか、育成のために関係者に集まっていただくとか、競輪場が、競輪、あるいはスポーツ競技の聖地というように位置付けられるのであれば、京都府全域から集まっていただくというようなケースも当然出てくることになり、そのことは京都府が所有している施設ということとも非常に整合的であり、そのあたりもしっかりと念頭に置いておく必要がある。ローカル的な視点と、リージョナルな視点がオーバーラップするようなところを、しっかりと押さえておくということである。
・　一見何か矛盾するような議論にも聞こえるかもしれないが、向日市にとっても、向日市のまちづくりのビジョンとの整合性が取れていないようなゾーンになってしまってはよくなく、一方で、向日市だけが便益を得るようなことでもいけないので、そのあたりのバランスの問題をしっかりと基本構想の中では描いておく必要があるのではないか。
・　繰り返しになるが、競輪場の再整備にあたっては、まずは選手ファーストというところから始まると思うが、そこから広がって多様なステークホルダーが関わりを持つようになっていくと思う。そうした広がりを具体的にイメージしながら、コンセプトを描いていく。そういうような形でまとめていただくと、一番よいのではないか。
・　顕在化している特定のステークホルダーだけでなく、潜在的なあらゆる関係者にとってもWin-Winの、皆さんに喜んでもらえるような形になるのが一番よい。そのあたりも本日の議論の中で共有ができたのではないか。

（以上）